

(公表用)

「道路政策の質の向上に資する技術研究開発」(平成28年度採択)

事後評価結果

番号	研究名	研究代表者	評価
28-1	ETC2.0 プローブ情報等を活用した“データ駆動型”交通需要・空間マネジメントに関する研究開発	東京工業大学 准教授 福田 大輔	A
<p>&lt;研究の概要&gt; ※成果報告レポートより引用</p> <p>長期かつ広域で観測される ETC2.0 プローブ情報等の交通関連ビッグデータを、マルチスケールの多様な交通モデルと有機的に結びつけることで、交通政策のエビデンスベース分析を可能とする“データ駆動型”交通需要・空間マネジメントに関する研究・技術開発を行った。具体的には、首都圏、北海道、沖縄を対象に、提案する各手法の社会実装(調査・分析・政策評価フレームの構築)を行い、各種交通社会実験の詳細検討に資する知見を提供するものである。</p> <p>&lt;事後評価結果&gt;</p> <p>都市部の日常交通や地方部の観光交通など幅広い対象に対し、ETC2.0 データや他の交通ビッグデータを利用して分析を進めた。中間評価での指摘を受けて研究全体の基軸が明確になり、多様な地域での複数のデータ駆動型モデル分析の関係性も明確にされている。このことから、研究目的は達成され、十分な研究成果があったと評価する。</p> <p>&lt;参考意見&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"><li>1. プローブデータを基盤とする様々な分析・評価手法を提案し、地域性を考慮した適用を各地で実施した点が高く評価できる。ただ、「総括的な議論」については、もう少し検討を深められると良かった。</li><li>2. 今後、構築された各モデルシステムの接合に期待したい。</li><li>3. データの拡充や交通社会実験によるデータ入手等を通じて、研究成果として得たモデル等のさらなる発展を期待したい。</li><li>4. 今後はより幅広い実用化に向けた工夫を期待する。</li></ol>			

※本事後評価は、新道路技術会議の各委員が評価を行い、第37回新道路技術会議において審議したものである。